

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	倫理学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	倫理学
担当講師	満原 健
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	本講義では、倫理学の基礎的な理論や思想を学ぶ。そのことを通して、医療従事者としてあるべき姿を描く能力、医療やケアの現場で自立して判断し行動する能力を養う。
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理学とはなにか 倫理学の諸問題／倫理学の分類</li> <li>2. 人間と宗教 それぞれの宗教の違い／死後の世界</li> <li>3. 善い行動の基準はなにか① 義務論／功利主義</li> <li>4. 善い行動の基準はなにか② 徳倫理学／ケアの倫理</li> <li>5. 医療従事者の倫理 医療倫理の四原則</li> <li>6. 医療従事者と患者の関係 インフォームド・コンセント</li> <li>7. 生死についての倫理① 堕胎／安楽死</li> <li>8. 生死についての倫理② 終末期医療／グリーフケア</li> <li>9. 試験</li> </ol>
テキスト 参考書	資料を配布します。参考になる文献は適宜紹介します。
評価の方法	定期試験で評価します。 試験は毎回の講義内容から出題します。
授業の形式 受講上の注意	座学

理学療法・作業療法学科 1 年

授業科目名	教育学
区分	基礎分野
学期、時間、単位	前期 15 時間 週 1 コマ 計 8 コマ 1 単位
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	教育学
担当講師	西田美恵子
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 《 関連資格： 》
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が生きるという事と教育の関わりを明らかにする。</li> <li>・教育の歴史を通し、教育について知見と広い視野を持つ。</li> <li>・社会に有為な資質の醸成とアイデンティティーの確立の必要性を把握する。</li> </ul>
授業の概要	<p>1 人類と教育というもの（教育の原点から現在を～）          文明のあけぼの～文字の発達と文化 楔形文字と周辺の文字等々と教育          ・文明の発達と継続を促す文字と教育。書写媒体・書記官、後世へと</p> <p>2、歴史にみえる教育のかたち          ○古代、中世における教育というもの          ・インドのナーランダ大学、ギリシャ・ローマの時代を例に          ・日本 ～飛鳥・奈良・平安期～（漢文・万葉仮名）徐々に敷衍する文字          ○中世・近世欧州の教育の発達と教育・・・教育の原点          ・海外～民衆教育の父「ペスタロッチ」、経験論「デューイ」          ・江戸期日本の教育の質の高さ～民衆の文盲率の低さ          ○明治維新以降 ～西洋文化に追いつく日本の教育制度とその奇跡</p> <p>3 教育学者が問う人間形成の基本について          ○自我の発達論～エリクソン「アイデンティティーの確立」          ○ボウルビー「愛着理論」等</p> <p>4 現代における当面の教育課題          ○文字離れと思考力 ○IT について</p>
テキスト 参考書	講義資料
評価の方法	ワークシート、テスト ワークシートは提出必須
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学</li> <li>・課題によっては話合いの時間を持ち、意見交換を行うことを通して互いに深め合う場合がある。</li> </ul>

理学療法・作業療法学科 1 年

授業科目名	社会人基礎
区分	基礎分野
学期、単位、時間	1 年前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	社会人基礎
担当講師	理学療法学科専任教員、作業療法学科専任教員
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 《 関連資格 》
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人として基本的なコミュニケーションや書類作成のスキルを身につける</li> <li>・ 社会情勢の理解とそのために必要な情報取得スキルを身につける</li> </ul>
授業の概要 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 接遇（あいさつ、敬語、コミュニケーション）</li> <li>2. 接遇（礼節、電話、実習中の態度、立ち位置等）</li> <li>3. 書き方（ハガキ、紹介用紙、メール、履歴書など）</li> <li>4. 書き方（レポート、カルテ、デイリーノート、提出物など）</li> <li>5. 社会の動き（ダイバシティ、SDGs、ICT 技術）</li> <li>6. 情報リテラシーについて</li> <li>7. プレゼンテーションの仕方</li> <li>8. 試験</li> </ol>
テキスト 参考書	なし
評価の方法	定期試験 100 点
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義と演習を行う</li> <li>・ 場合により、オンラインにて実施する。</li> </ul>

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	物理学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	物理学
担当講師	森澤 文博 橋本 宜昭
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業の目的	<p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物理法則について理解する。</li> <li>・地球上で生活する人間も物理法則にしたがって運動していることを理解する。</li> <li>・物理学が理学療法士、作業療法士にどのように関連するか理解する。</li> </ul>
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理量とその表し方</li> <li>・物理学で使うグラフと関数</li> <li>・いろいろな運動</li> <li>・さまざまな力</li> <li>・力のつり合いと運動の法則</li> <li>・物体の重心と回転運動</li> <li>・運動量・仕事とエネルギー</li> </ul>
テキスト 参考書	配布資料
評価の方法	<p>期末試験 小テスト</p>
授業の形式 受講上の注意	一斉授業（講義形式）

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	社会福祉学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	社会福祉学						
担当講師	塚原 健司						
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》社会福祉士						
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉的な視点で社会を見ていくことで各々が新たな視野をひらき理解がすすむことをめざす。</li> <li>・OT・PTとして業務を進めていく上で必要な社会福祉制度について学ぶ。</li> </ul>						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉・社会保障の基本理念と発展過程</li> <li>2 児童虐待</li> <li>3 生存権と公的扶助</li> <li>4 年金制度</li> <li>5 医療保障と介護保険</li> <li>6 障害者福祉と高齢者保健福祉</li> <li>7 期末テスト対策</li> <li>8 期末テスト</li> </ol> <p>・学習の進捗や状況によって変更することもあります。</p>						
テキスト 参考書	社会福祉 新川 泰弘・宮野 安治編著 青踏社						
評価の方法	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">授業態度</td> <td style="text-align: right;">20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td style="text-align: right;">30%</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> </table>	授業態度	20%	レポート	30%	期末テスト	50%
授業態度	20%						
レポート	30%						
期末テスト	50%						
授業の形式 受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には講義形式ですが、グループワークもあります。積極的な授業への参加を期待します。</li> <li>・社会情勢や価値観の変化などについて社会福祉的な視点で考えることを期待します。</li> <li>・場合により、オンラインにて実施する。</li> </ul>						

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	公衆衛生学
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	公衆衛生学	
担当講師	國近敏伸	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 関連資格 作業療法士	
授業の目的	公衆衛生は、保健・医療・福祉を包括する学問である。その領域は、これらの分野を学術的に連携する多岐な要素を持っている。理学・作業療法士にとって重要となる項目に焦点を当て、講義を行う。	
授業の概要	第 1 回	公衆衛生とは <<到達目標>> ・公衆衛生とはどのような学問か説明することができる ・代表的な健康指標をいくつか答えることができる ・現在の我が家の公衆衛生の課題を説明できる
	第 2 回	地域保健と保健行政 <<到達目標>> ・疫学の目的・手法について簡単に説明できる ・保健所と市町村保健センターの業務と役割について答えることができる。
	第 3 回	精神保健について <<到達目標>> ・わが国の精神保健行政の概要・特徴を答えることができる。 ・多い精神疾患について症状・特徴などを答えることができる。
	第 4 回	生活習慣病について <<到達目標>> ・脳卒中の危険因子と生活習慣病対策について説明できる。 ・わが国のがん対策について説明できる。
	第 5 回	感染症について <<到達目標>> ・感染予防対策を代表的な感染症を例に挙げいくつか答えることができる。
	第 6 回	母子保健について <<到達目標>> ・母子保健の目的、関連法について答えることが出来る ・専門職としてどのように関わられるか答えることが出来る
	第 7 回	難病患者を対象とした支援について <<到達目標>> ・支援と制度について答えることが出来る ・代表的な疾患を例に PT・OT の関わりを答えることが出来る
	第 8 回	期末試験
テキスト 参考書	配布資料	
評価の方法	期末試験を実施	
授業の形式 受講上の注意	座学形式	

授業科目名	体育
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 15時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	体育
担当講師	藤村忠史
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《関連資格》保健体育教員免許
授業の目的	医療や介護の現場では身体を使って仕事をする機会が多い。またチームアプローチという集団の中で行動するために、秩序正しく能率的な動きが求められる。講義を通して、体力の向上と秩序ある行動様式の習得、さらに精神面の向上（学習意欲の向上など）を図る。
授業の概要	<p><u>講義の概略構成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団行動とは                      集団行動の必要性の理解                      大きな声を出すことに慣れさせる。                      基本的な行動様式の習得                      約束や決まりを守らせることの重要性                      敏速且つ的確な行動の習得                      リーダーの指示による行動の習得</li> <li>・ 基本的行動の習得                      姿勢                      方向転換                      集合・整列・番号・解散                      列の増減                      開列                      行進                      足踏み                      礼</li> <li>・ 各学科での集団行動演技の構成決め・練習</li> <li>・ 集団行動発表会の実施</li> </ul>
テキスト 参考書	特になし。
評価の方法	最終講義にて実施する発表の内容によって評価する。
授業の形式 受講上の注意	講義は講堂にて行う（実技形式）。

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	日常英語
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常英語	
担当講師	Fidel G.Montoya	
実務経験	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
授業の目的	Beginner's Survival English	
授業の概要	1.Introductions Group Assignments Text:Passport Unit1	Introducing yourself Where, Who, What Picture Speculation
	2.Text:Passport Unit2,3	Simple questions Numbers and money
	3.Text:Passport Unit4	Simple questions Hotel Reservations role play
	4.Text:Passport Unit4,5	Could I, Can I, Do you mind...? Giving Directions
	5.Text:Passport Unit6,7	Making plans, asking permission Seeing the Doctor
	6.Text:Passport Unit8,9	Asking questions,Discussions,Reporting Making appointments Restaurant role play
	7.Text:Passport (Review)	Class discussion, likes dislikes Review all units
	8.Test	Unit 1-9
テキスト 参考書	Passport Student's Book	
評価の方法	Test	
授業の形式 受講上の注意	・場合により、オンラインにて実施する。	

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	医学英語
区分	基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 15 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	医学英語	
担当講師	亀山 一義	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格：認定作業療法士・保健学博士 》	
授業の目的	健康・福祉関係の話題に関する英語の統合能力を養成する。	
授業の概要	第 1-2 回	PT・OT の定義を英語で読む 世界理学療法士連盟・世界作業療法士連盟が定義する PT・OT の定義を英語で読み理解する。
	第 3 回	人体外部および内部の部位を英語で読む・書く リハビリテーションに必要な身体部位を英語で理解する。
	第 4-5 回	疾病および症状を英語で読む・書く リハビリテーションに必要な疾患や症状を英語で理解する。
	第 6 回	診療科を英語で読む・書く 疾患に対応する診療科を理解する。
	第 7 回	薬および検査を英語で読む・書く
	第 8 回	テスト
テキスト 参考書	なし	
評価の方法	筆記試験（合計 60/100 点以上が単位取得とする）	
授業の形式 受講上の注意	講義（オンラインで実施する場合もあり）	

はくほう会医療専門学校赤穂校

理学療法学科・作業療法学科 1 年

授業科目名	解剖学 I
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	解剖学 I	
担当講師	亀山一義	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格: 認定作業療法士・保健学博士 》	
授業の目的	理学療法・作業療法を円滑に行うためにはヒトの運動を理解する必要がある。この講義では、①ヒトの運動（関節運動）にかかわる骨格、②関節運動に作用する骨格筋について学習する。	
授業の概要	第 1 回	骨格の構造 《到達目標》 ①骨の構造について総論的に理解する。 ②骨の発生について理解する。
	第 2・3 回	体軸性骨格 《到達目標》 ①上肢を構成する骨の名称や位置などを覚える。 ②個々の骨の特徴（結節・隆起など）について理解する。
	第 4・5 回	付属性骨格（上肢） 《到達目標》 ①上肢を構成する骨の名称や位置などを覚える。 ②個々の骨の特徴（結節・隆起など）について理解する。
	第 6・7 回	付属性骨格（下肢） 《到達目標》 ①下肢・体幹を構成する骨の名称や位置などを覚える。 ②個々の骨の特徴（結節・隆起など）について理解する。
	第 8 回	テスト① 第 1-7 回（骨系）についての筆記試験
	第 9-11 回	上肢・上肢帯の骨格筋 《到達目標》 ①上肢・上肢帯の運動に作用する骨格筋の名称を覚える。 ②構造（起始・停止）と作用を理解する。
	第 12-14 回	下肢・体幹の骨格筋 《到達目標》 ①下肢・体幹の運動に作用する骨格筋の名称を覚える。 ②構造（起始・停止）と作用を理解する。
	第 15 回	テスト② 第 9-14 回（筋系）についての筆記試験
テキスト 参考書	野村巖 編：解剖学（第 5 版） 配布資料	
評価の方法	テスト①・②を評点とする。*60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学	

理学療法学科・作業療法学科 1年

授業科目名	解剖学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	解剖学Ⅱ
担当講師	中村 めぐみ
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《関連資格》理学療法士
授業の目的	<p><u>方向目標</u>                      理学療法士・作業療法士の基礎の3本柱の1つであるのが解剖学である。この解剖学Ⅱでは循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・内分泌系といった主に臓器についての構造を学んでいき、高齢者の大半が罹患している内部障害系疾患に対応する基礎を身につける。</p> <p><u>到達目標</u>                      臓器の構造、役割について理解する。</p>
授業の概要	<p>1.循環器系                      肺循環と体循環、血管の構造、心臓、全身の動脈・静脈</p> <p>2.呼吸器系                      鼻腔、喉頭、気管と気管支、肺、縦隔</p> <p>3.消化器系                      口腔、唾液腺、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、嚥下</p> <p>4.泌尿器系                      腎臓、尿管、膀胱、尿道、生殖器</p> <p>5.感覚器系                      外皮、視覚器、平衡聴覚器</p>
テキスト 参考書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第6版 医学書院
評価の方法	定期試験（筆記）100%
授業の形式 受講上の注意	座学 ＊場合によりWEB授業となる

理学療法学科・作業療法学科 1年

授業科目名	生理学 I
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

担当講師	森澤 文博
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無    《 関連資格 理学療法士 》
授業の目的	<p>方向目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ヒトは生体内外の種々の変化に適応し全体として調和のとれた生命現象を営んでいる。この調和が崩れたものが疾病であり、今後疾病を理解するうえで重要なヒトの正常機能を暗記ではなく、理解する</li> </ul> <p>到達目標:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 下記分野の国家試験問題が解けること</li> </ul>
授業の概要	<p>physiology(生理学)とは</p> <p>第1章 生命現象と人体</p> <p>第2章 細胞の構造と機能</p> <p>第3章 神経の興奮伝導と末梢神経</p> <p>第4章 中枢神経系</p> <p style="padding-left: 20px;">A) 中枢神経系とは</p> <p style="padding-left: 20px;">B) 脊髄</p> <p>◇ 終了後中間試験</p> <p>第5章 筋と骨</p> <p>第6章 感覚</p> <p>第7章 血液</p> <p>◇ 終了後定期試験</p>
テキスト 参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学:医学書院 * 電子書籍 適宜必要教材
評価の方法	中間試験:40% 定期試験:60%
授業の形式 受講上の注意	座学形式

授業科目名	運動学Ⅰ・Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 2単位 60時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	運動学Ⅰ・Ⅱ	
担当講師	亀山 一義	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無    《 関連資格：認定作業療法士・保健学博士 》	
授業の目的	身体運動の仕組みを理解し、正常運動とその仕組みに関する基礎知識を身につけることができる。それらを身につけるために①力学原理に基づく運動の記述と解釈、②筋骨格系の構造・機能と関節の運動との関係、③日常生活における基本動作について学習する。	
授業の概要	第1-2回	生体力学の基礎 《到達目標》 ①：生体力学における運動学と運動力学を理解する。 ②：身体運動における運動学および運動力学的分析を理解する。
	第3-7回	生体の構造と機能 《到達目標》 ①：骨および関節の構造を理解する。 ②：関節運動を理解する。 ③：骨格筋の構造と収縮様式を理解する。
	第8回	テスト① テスト範囲：第1-7回までの講義内容 テスト形式：記述
	第9-14回	上肢帯および手指の運動学 《到達目標》 ①：関節に作用する筋および靭帯を理解する。 ②：関節の構造（骨の関連など）を理解する。 ③：①・②から日常生活における基本動作と関連付けできる。
	第15回	テスト② テスト範囲：第9-14回までの講義内容 テスト形式：記述
	第16-22回	下肢帯の運動学 《到達目標》 ①：関節に作用する筋および靭帯を理解する。 ②：関節の構造（骨の関連など）を理解する。 ③：①、②から日常生活における基本動作と関連付けできる。
	第23回	テスト③ テスト範囲：第6-22回までの講義内容 テスト形式：記述
	第24-29回	体幹の運動学 《到達目標》 ①：関節に作用する筋および靭帯を理解する。 ②：関節の構造（骨の関連など）を理解する。 ③：①、②から日常生活における基本動作と関連付けできる。
	第30回	テスト④ テスト範囲：第24-29回までの講義内容

		テスト形式：記述
	*講義の進捗状況により講義回と内容が異なる場合がある.	
テキスト 参考書	中村隆一他著：基礎運動学 第7版	
評価の方法	運動学Ⅰはテスト①・②，運動学Ⅱはテスト③・④を評点とする. *60点以上を合格とする.	
授業の形式 受講上の注意	座学（場合により web での講義もあり）	

はくほう会医療専門学校赤穂校

授業科目名	リハビリテーション概論
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	前期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	リハビリテーション概論
担当講師	国近 敏伸
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	<p>① リハビリテーションの定義・理念について。資格制度成立の歴史的背景や健康に関して現在の福祉・医療制度についての概略を学ぶ。</p> <p>② 代表的疾患について理学療法士・作業療法士の関わりや基礎的な知識、診断法、評価法などの概略を学ぶ</p>
授業の概要	<p>1-5回 健康について リハビリテーションの歴史 ICF 分類 関連法規          &lt;到達目標&gt;          ① リハビリテーションの理念とは何かを簡単に説明できる          ② 障害の評価について説明できる          ③ 理学療法士・作業療法士の仕事と法律上の位置づけについて 関連法規          ④ モデルケースを元に ICF 分類を体験 小グループでのワーク</p> <p>6-7回 身体障害の分類 概論に関する国家試験について          急性期～維持期 PT・OT の役割 ユニバーサルデザイン          &lt;到達目標&gt;          ⑤ 理学療法士及び作業療法士法まとめ 各病期の役割          ⑥ それぞれの専門性の違いについて説明できる</p> <p>8-14回 グループワークと発表          &lt;到達目標&gt;障害別・疾患別リハビリテーションについて          テーマ:①脳血管障害(急性期) ②脳血管障害(回復期) ③脊髄損傷          ④パーキンソン病 ⑤脳性麻痺 ⑥関節リウマチ ⑦四肢切断          ①各領域において障害の特徴・リハビリテーションの流れを説明できる          ②理学療法士・作業療法士の行う評価・治療がイメージできる</p> <p>15回 定期試験</p>
テキスト 参考書	リハビリテーション総論 改訂第3版 診断と治療社 配布資料を中心に進める
評価の方法	定期試験 グループワークと発表
授業の形式 受講上の注意	講義とグループワーク

作業療法学科 1 年

授業科目名	作業療法概論
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法概論	
担当講師	宍戸 聖弥	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無    《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①作業療法の理論について基礎を学び、作業療法評価を体験する。 ②多種ある作業活動を治療的に用いるための基礎的知識を学ぶ。	
授業の概要	第 1-2 回	作業療法の紹介 <到達目標> ①作業の意味と作業療法の歴史や原理を理解できる ②作業療法の実践現場について説明できる
	第 3-4 回	作業療法士の養成・教育について <到達目標> ①作業療法士に求められる素質や倫理を知ることができる ②作業療法士の教育や研究について調べ、理解できる ③日本作業療法士協会と世界作業療法士連盟の役割が理解できる
	第 5-6 回	作業の分析と治療適用 <到達目標> ①作業分析について知ることができる ②治療適用の領域について理解できる
	第 7-12 回	諸理論と作業療法 <到達目標> ①CMOP-E や COPM 等の基礎がわかる ②人間作業モデルや OSA 等の基礎がわかる ③川モデルの基礎が理解できる ③その他のプロセス理論 (MTDLP、OTIPM/トランザクショナルモデルなど) と評価の繋がりを体験できる。
	第 13-14 回	作業療法の管理運営 <到達目標> ①社会保障制度やリスクマネジメントの理解ができる ②作業療法の記録と報告ができる (SPDCA や SOAP)
	第 15 回	定期テスト (第 1 回から 14 回で学んだ内容について)
テキスト 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・濱口豊太：標準作業療法学 作業療法学概論 第 4 版 (医学書院：電子書籍)</li> <li>・藤本一博：作業療法理論の教科書 (メジカルビュー社：電子書籍)</li> <li>・齋藤佑樹：作業で語る事例報告 第 2 版 (医学書院：電子書籍)</li> </ul>	
評価の方法	レポート課題、グループ課題、定期テスト等の合計得点が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク、オンライン講義など	

作業療法学科 1 年

授業科目名	基礎作業学
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	基礎作業学	
担当講師	宍戸 聖弥	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無    《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①作業療法で扱う「作業」について理解を深める。 ②多種ある作業活動を治療的に用いるための基礎的知識を学ぶ。 ③作業療法の実際について理解できる。	
授業の概要	第 1 回	私の考える「作業」とは <到達目標> ①自分の「作業」を知ることができる。 ②作業療法における作業の意味を理解できる。
	第 2 回	作業療法の実際① <到達目標> ①各領域の作業療法実践について調べることができる ②各領域の作業療法実践について他学生に示すことができる
	第 3-9 回	作業療法の実際② <到達目標> ①動画を見て作業療法の概要を知ることができる。 ②動画の作業療法を自分の言葉で記載できる。 ③動画の作業療法について、他の学生と討論できる。
	第 10-11 回	作業科学について <到達目標> ①人・環境・作業の関係性を説明できる ②作業科学について概要を理解できる。
	第 12-14 回	作業・活動分析、作業遂行分析の体験 <到達目標> ①作業分析について理解し、実践できる ②作品制作を通じた治療（作業）を分析できる ③分析についてグループで討論し、ワークシートを作成できる
	第 15 回	定期テスト（第 1 回から 14 回で学んだ内容について）
テキスト 参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登真一：標準作業療法学 基礎作業学 第 3 版（医学書院：電子書籍）</li> <li>・濱口豊太：標準作業療法学 作業療法学概論 第 4 版（医学書院：電子書籍）</li> <li>・藤本一博：作業療法理論の教科書（メジカルビュー社：電子書籍）</li> <li>・齋藤佑樹：作業で語る事例報告 第 2 版（医学書院：電子書籍）</li> </ul>	
評価の方法	レポート課題、グループ課題、定期テスト等の合計得点が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク、オンライン講義など 作業活動に伴う材料費として 500～1000 円程度必要になる場合があります。	

作業療法学科 1 年

授業科目名	作業療法管理学
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法管理学	
担当講師	渡部 静	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	<p>①作業療法業務に求められる「管理」「安全」「チーム連携」の基礎的知識を身につける。</p> <p>②他職種と協働するための思考力と、情報を共有する力を養う。</p> <p>③制度・経営・教育など、作業療法士を取り巻く環境を広く理解し、自分のキャリア形成を考える基盤をつくる。</p>	
授業の概要	第 1 回	<p>作業療法管理の基礎</p> <p>《到達目標》</p> <p>①作業療法士業務と管理がどのように関わるかを説明できる。</p> <p>②管理の資源とその特性を理解する。</p>
	第 2-4 回	<p>作業療法に関連する社会保障制度・業務・経営の基礎</p> <p>《到達目標》</p> <p>①社会保障制度と組織を理解する。</p> <p>②作業療法士の働き方と組織運営の視点を理解する。</p> <p>③制度から作業療法の専門性がどのような価値として評価されているかを理解する。</p>
	第 5-8 回	<p>他職種連携と情報共有</p> <p>《到達目標》</p> <p>①他職種の役割と連携の重要性を理解し、必要な情報や意見を伝える方法を身につける。</p> <p>②診療情報の役割と記録（SOAP）の基本原則を身につける。</p> <p>③情報を取り扱う際の注意点を理解する。</p>
	第 9-12 回	<p>作業療法における安全管理</p> <p>《到達目標》</p> <p>①感染予防対策を理解する。</p> <p>②作業療法の実施中に遭遇する事故やリスク要因を理解する。</p> <p>③リスク要因を発見し、事故を防ぐための対策を立案できる。</p>
	第 13 回	<p>作業療法の職業倫理</p> <p>《到達目標》</p> <p>①職業倫理・研究倫理について理解する。</p> <p>②ハラスメントとその防止について理解する。</p>
	第 14 回	<p>臨床教育の基礎</p> <p>《到達目標》</p> <p>①臨床実習の目的と到達目標を理解する。</p> <p>②作業療法協会の生涯教育制度を理解する。</p> <p>③作業療法士のキャリア開発について考える。</p>
	第 15 回	確認テスト
テキスト 参考書	<p>配布資料</p> <p>斉藤秀之 編著「リハビリテーション管理学」 医学書院（電子版）</p>	

評価の方法	提出物(30点)、発表(30点)、試験(40点)
授業の形式 受講上の注意	座学・グループワーク (場合により web での講義もあり)

はくほう会医療専門学校赤穂校

作業療法学科 1 年

授業科目名	作業療法評価法概論
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法評価法概論	
担当講師	渡部 静	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	対象者を理解することに不可欠な作業療法評価を理解し、実施できるようになることを目的とする。	
授業の概要	第 1 回	作業療法の理解 《到達目標》 ①「作業療法」を理解する。 ②「作業療法」を他者に説明できる。
	第 2 回	作業療法と評価 《到達目標》 ①作業療法評価を理解する。 ②作業療法評価の意味や意義を理解する。
	第 3-4 回	面接法・観察法 《到達目標》 ①面接および観察の基礎知識を身につける。 ②面接および観察を実行する。
	第 5-7 回	意識障害の評価とバイタルサイン 《到達目標》 ①全身状態とバイタルの関係を理解する。 ②正常な意識状態やバイタルを理解する。 ③バイタル測定を実施できる。
	第 8 回	テスト（筆記） テスト範囲：第 1-7 回までの講義内容 テスト形式：記述
	第 9 回	テスト（実技） バイタル測定（脈拍および血圧測定）
	第 10-13 回	形態測定 《到達目標》 ①形態測定の意義と目的を説明できる。 ②形態測定の方法を説明できる。 ③形態測定を実施できる。
	第 14-15 回	テスト（実技） 形態測定（長さおよび太さの測定）
テキスト 参考書	標準作業療法学 作業療法評価学（電子版）	
評価の方法	テスト（筆記および実技）で 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、実技（場合により web での講義もあり）	

作業療法学科 1 年

授業科目名	作業療法評価法 I
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法評価法 I	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無    《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	<p>①作業療法治療に必要な不可欠な関節可動域測定の概要を学ぶ。</p> <p>②関節可動域測定を実技として実施できる。</p> <p>*作業療法評価法概論と関連させながら講義を進める。</p>	
授業の概要	第 1 回	<p>関節可動域測定の基礎</p> <p>《到達目標》</p> <p>①関節可動域測定の意義と目的を説明できる</p> <p>②運動面、運動軸、運動制限について説明できる</p>
	第 2-5 回	<p>上肢の関節可動域測定</p> <p>《到達目標》</p> <p>①上肢の関節可動域測定の手順と注意事項を説明できる</p> <p>②上肢の関節可動域測定を実施し、その結果を記録できる</p>
	第 6 回	<p>小テスト・復習</p> <p>テスト範囲：上肢の基本軸、移動軸、参考可動域、肢位及び注意点</p> <p>テスト形式：記述</p>
	第 7-10 回	<p>下肢の関節可動域測定</p> <p>《到達目標》</p> <p>①下肢の関節可動域測定の手順と注意事項を説明できる</p> <p>②下肢の関節可動域測定を実施し、その結果を記録できる</p>
	第 11 回	<p>小テスト・復習</p> <p>テスト範囲：下肢の基本軸、移動軸、参考可動域、肢位及び注意点</p> <p>テスト形式：記述</p>
	第 12-14 回	<p>体幹の関節可動域測定</p> <p>《到達目標》</p> <p>①体幹の関節可動域測定の手順と注意事項を説明できる</p> <p>②体幹の関節可動域測定を実施し、その結果を記録できる</p>
	第 15 回	<p>実技試験</p> <p>テスト範囲：第 2-5 回、第 7-10 回までの演習内容</p> <p>テスト形式：実技</p>
	テキスト 参考書	標準作業療法学 作業療法評価法（電子書籍）
評価の方法	<p>筆記試験（小テスト 2 回）：各 20 点</p> <p>実技試験：60 点</p> <p>筆記試験および実技試験を合計し、60 点以上を合格とする。</p>	
授業の形式 受講上の注意	<p>授業形式：座学，実技で行う。場合により、オンラインにて実施する。</p> <p>受講上の注意：実技の際は実習着を着用すること。</p> <p>必要な評価機器は指示を行う。</p>	

作業療法学科 1 年

授業科目名	日常生活活動
区分	専門分野
学期、単位、時間	前期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常生活活動	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無      《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①日常生活活動について、その概念・範囲、評価などについて理解をする。 ②基本的な動作についてその方法・介助方法を理解し、実践できる。	
授業の到達目標	授業の到達目標 1. ADL の概念や範囲について理解する 2. 全介助の動作指導、動作介助が作業療法士の視点で実施できる 3. 紙面上の ADL の評価や自助具の作成ができる	
授業の概要	第 1 回	ADL の概念と範囲 《到達目標》 ①：ADL の概念と範囲を理解する ②：ICF における位置づけを理解する
	第 2-5 回	ADL の評価 《到達目標》 ①：量的評価と質的評価を理解する ②：ADL の評価法を列挙できる ③：FIM の得点を模擬患者につけることができる
	第 6-11 回	全介助の動作を学ぶ 《到達目標》 ①：起居動作と移乗動作の全介助での実践ができる
	第 12 回	実技試験 テスト範囲：第 6-11 回までの演習内容 テスト形式：実技
	第 13-14 回	自助具の作成 《到達目標》 ①：自助具を理解する ②：万能カフを作成することができる
	第 15 回	確認テスト テスト範囲：第 1-5 回、13-14 回の講義内容 テスト形式：記述 MTDLP の導入
テキスト 参考書	・標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学 (電子書籍)	
評価の方法	・自助具作成      10 点 ・実技試験        50 点 ・確認テスト      40 点 合計 100 点 (60 点以上を合格とする)	
授業の形式 受講上の注意	・講義と実技を行う ・場合により、オンラインにて実施する	